

令和5年（2023年）10月5日

## 山形大学が県の野球競技団体と連携協定を締結

～ 山形県野球連盟・山形県高等学校野球連盟 ～

### 【本件のポイント】

- それぞれの資源や機能等を活用しながら相互に協力し、本学の「共創拠点」化を図り、スポーツを通じた地域貢献・地域活性化及びスポーツ文化の振興と発展に寄与することを目的に締結
- 本学が県内のスポーツ競技団体と連携協定を締結するのは、令和3年度の特定非営利活動法人山形県サッカー協会、本年4月の山形県ラグビーフットボール協会、一般財団法人山形陸上競技協会に続き4件目
- 互いに連携・協働することで競技人口の増加や指導者の育成などスポーツの技術力・競技力向上に寄与し、相乗効果による本学の教育、研究への波及と好循環に繋がることの期待



### 【概要】

山形大学（学長：玉手英利）は、令和5年10月5日に山形県野球連盟（会長：土田良雄）及び山形県高等学校野球連盟（会長：高橋良治）と三者による包括連携協定を締結しました。本学が県内のスポーツ競技団体と連携協定を締結するのは、令和3年度の特定非営利活動法人山形県サッカー協会、本年4月の山形県ラグビーフットボール協会、一般財団法人山形陸上競技協会に続き4件目です。

この協定締結は、それぞれの資源や機能等を活用しながら相互に協力し、山形大学の教育及び研究の充実・発展を図り、さらに野球を通じた地域貢献・地域活性化及びスポーツ文化の振興と発展に寄与することを目的としたものです。各協会それぞれと連携し協働することで、本学施設が地域の人々と連携し交流できる「共創」の場として地域連携に貢献することを目指します。さらに、大学の施設に「大学の知」という付加価値を投入し、一般の公共施設では実現できない大学ならではの地域貢献を行うことで、相乗効果による教育、研究への好循環に繋がることが期待されます。

また、この度の締結を記念して両連盟からそれぞれ、小白川キャンパス多目的グラウンドでの活用を目的として野球関連備品（ベンチ型収納ボックス及び防球・集球ネット）の寄贈を受けました。今後、両連盟との共同事業はじめ本学硬式野球部の活動などで活用して参ります。

### 【背景】

文部科学省は、新しい価値と社会的変化（イノベーション）の創出のために、国立大学等キャンパスの「共創拠点（イノベーション・commons）」化を推進し、国立大学へのソフト・ハード両面での支援を強化しています。そして、令和3～4年度にかけて、小白川キャンパスの屋外体育施設が全面改修されたことを受けて、本学ではこれらリソースの活用を通じたステークホルダーとの共創活動の可視化、そして地域課題解決の一助となることを目指しています。この度の締結は、本学と競技団体との連携を通して、競技者・指導者の育成、スポーツ文化の振興、そして地域活性化のために、より強固で持続的な三者の連携と発展を期して行ったものです。

### 【今後の展望】

小中学生対象のスポーツ教室や各種スポーツ指導者養成等の拠点として本学施設を活用してもらい、競技人口の増加やスポーツの技術力・競技力向上に寄与し、本学施設が地域の人々が連携し交流できる「共創」の場になることを目指します。また、単にグラウンドを開放するだけではなく、「大学の知」という付加価値を投入することで新たな教育プログラムを開発するなど、一般の公共施設では実現できない大学ならではの地域貢献を行うことで、相乗効果による教育・研究への波及と好循環に繋がることが期待されます。

お問い合わせ

健康と学びのサポートセンター（CWB）センター長 中西正樹  
（学術研究院 教授（地域教育文化学部長））

TEL 023-628-4428 メール yu-cwb@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

**【協定の内容】**

協定の名称： 国立大学法人山形大学と山形県野球連盟並びに山形県高等学校野球連盟との包括連携協定書

締結年月日： 令和 5(2023)年 10月5日

期 間： 令和 6(2024)年 3月 31 日まで（更新有り）

目 的： 両機関の包括的な連携のもと、それぞれの資源や機能等を活用しながら相互に協力し、山形大学の教育及び研究の充実・発展を図り、もって野球を通じた地域貢献・地域活性化及びスポーツ文化の振興と発展に寄与すること

連 携 内 容： (1) 双方が有する知的資源、人的資源、及び物的資源の相互活用に関すること  
(2) 双方が共同で実施する事業の企画、調整、及び推進に関すること  
(3) その他、目的を達成するために必要な事項に関すること

寄 贈 品： 屋外ベンチ型収納ボックス 4台（山形県野球連盟様から）  
硬式野球用防球ネット 計3台（山形県高等学校野球連盟様から）